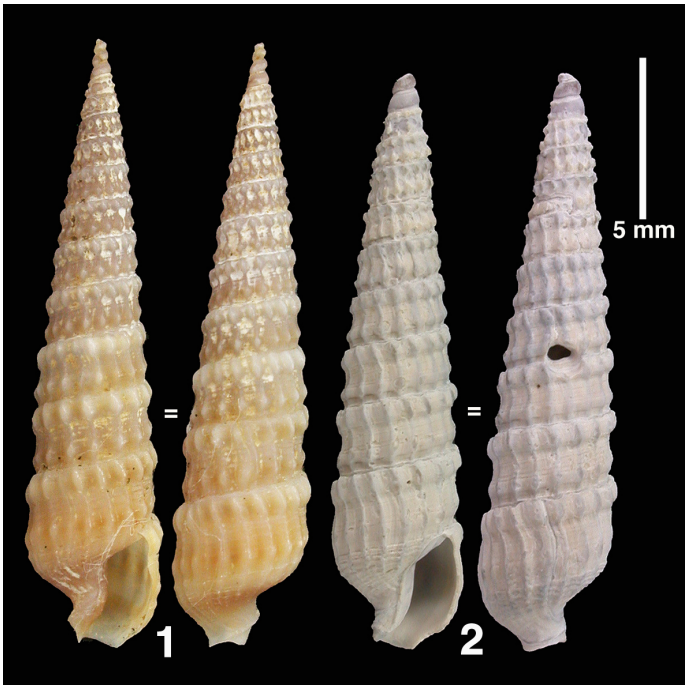
イボヒメトクサ　*Granuliterebra bathyraphe* (E. A. Smith)

【選定理由】

本種は内湾から湾口部にかけての潮下帯砂泥底にすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も知多湾、三河湾湾口部、伊勢湾知多半島沖で死殻は少数採集されるが、近年ほとんど生貝が採集されていない（中山, 1980：木村, 1996：木村, 2000）。その後の調査でも非常に稀に死殻は採集されたが、生貝は採集されていない。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



1: 南知多町日間賀島南沖(ドレッジ水深 10–20 m), 1995 年 2 月 9 日,
2: 名古屋市名古屋港沖(ドレッジ水深 5–15 m), 2008 年 10 月 9 日,
木村昭一採集

【形　態】

殻長約 30 mm の細長い円錐型の貝で、殻は厚くやや強い縦肋があり、いぼ状の結節がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

県内の潮下帯では、近年生貝が採集されない。死殻の採集例も非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、熱帯インド、西太平洋。国内では茨城県以南から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような生息環境悪化のため、本種の生息場所、個体数ともに減少していると考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

本種は数少ない内湾性のタケノコガイ科貝類である。生息水深帯がやや深く、モニタリングが困難な事もあり、国のレッドデータブックには掲載されていないが、今後絶滅危惧種とすることも考慮するのが望ましい。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3–19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18–20. 名古屋貝類談話会.
中山 清, 1980. 知多湾南部海域の貝類相. かきつばた, (6): 10–12. 名古屋貝類談話会.

（木村昭一）